

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第6号 水稻

発行日 平成24年 8月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 刈り取り始めの目安となる日（日平均積算気温が950℃に到達する日）は平年より2日程度早まる予想です。収穫時期は日没が早まりますので、余裕のある作業計画で、適期に収穫しましょう。
- ◆ コンバインや乾燥調製施設の点検、整備は早めに行いましょう。
- ◆ 完全落水は出穂後30～35日後としましょう。（品質低下の防止）
- ◆ 刈取適期の判定は黄化率で80～90%を目安に、適期に収穫しましょう。
- ◆ 籾の乾燥は二段乾燥を心がけ、玄米水分15%以下に仕上げましょう。

1 生育状況

県全体の出穂期は8月7日と平年並でした（表1）。出穂後も好天で経過しており、登熟は順調に進んでいると想定されます。

表1 水稻の地帯別出穂時期 各農業改良普及センター調べ

| 農業地帯 | 出穂時期(月/日) | | | | | | | | |
|-------|-----------|-----|------|-----|-----|------|--------|----|----|
| | 本年 | | | 平年 | | | 平年差(日) | | |
| | 始期 | 盛期 | 終期 | 始期 | 盛期 | 終期 | 始期 | 盛期 | 終期 |
| 北上川上流 | 8/5 | 8/8 | 8/12 | 8/3 | 8/7 | 8/11 | 2 | 1 | 1 |
| 北上川下流 | 8/3 | 8/7 | 8/11 | 8/4 | 8/7 | 8/11 | -1 | 0 | 0 |
| 東 部 | 8/5 | 8/7 | 8/13 | 8/5 | 8/9 | 8/13 | 0 | -2 | 0 |
| 北 部 | 8/7 | 8/9 | 8/12 | 8/4 | 8/7 | 8/12 | 3 | 2 | 0 |
| 県 全 体 | 8/4 | 8/7 | 8/11 | 8/4 | 8/7 | 8/11 | 0 | 0 | 0 |

注) 1 平年値は平成13年～23年（15年を除く）の10か年の平均値

2 始期、盛期、終期は各々地帯で概ね10%、50%、90%の水田が出穂期となった日

2 気象経過

8月も気温は平年より高く経過しています（図1）。東北地方の1ヶ月予報（仙台管区气象台8月24日発表）では、前半は平年に比べ晴れの日が多く、後半は天気は数日の周期で変わる見込みです。向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%と予想されています。

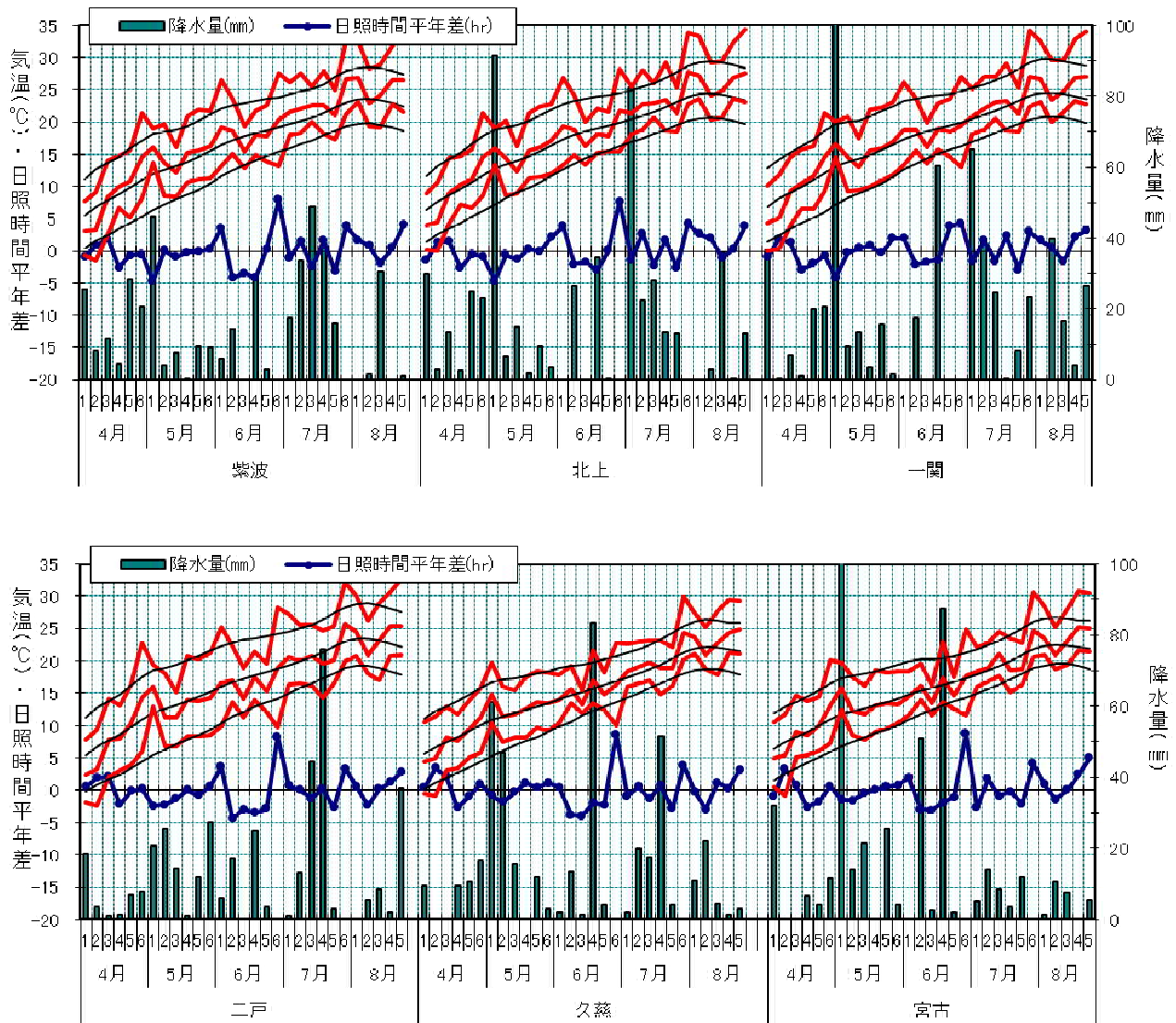


図1 半月別気象経過図（4月第1半月～8月第5半月）
（上段；紫波・北上・一関 下段；二戸・久慈・宮古）

3 登熟を低下させない水管理

登熟期の高温は品質低下の原因となるので、登熟を低下させない水管理を心掛けましょう。

登熟期間の水管理は食味、品質及び収量に大きく影響します。根の活力を維持するため間断かんがいをを行い、田面が湿っている程度の水分を保つような水管理を行ってください。

落水が早すぎると収量や品質の低下につながります。以下を目安に落水しましょう。

- ◆ 排水が悪く地下水位が高い水田・・・出穂30～35日頃
- ◆ 排水のよい水田・・・出穂35～40日頃

*台風、大雨等で浸冠水の恐れがあるときは、水尻を開けて排水を促します。浸冠水した場合は、葉先を早く出すことが重要ですので、速やかな排水に努めます。

ただし、稲体が水分を失いやすい状態にあるため、田面を急激に干さないようにしてください。

4 適期刈り取りの励行

適期刈り取りは高品質生産のために重要です。黄化初割合80～90%に達したら刈り取りを行ってください。今年も新米の安全性を確認するための放射性物質調査を全県で実施します。カントリーエレ

ベーター、ライスセンターをご利用の方は施設の稼働時期を確認のうえ刈り取り計画をたてましょ
う。

(1) 刈り取り適期の予測

刈り取り適期は出穂期からの日平均気温の積算による方法で予測します。品種ごとに刈り取り
適期の目安となる積算気温が定められています(表2)。

本年の各地域での刈り取り始めの目安となる日(日平均積算気温が950℃に到達する日)は平
年より2日程度早まると予測されます(表3、図2)。コンバイン、乾燥調整施設の清掃、点検整備
は早めにすませ、刈り取りを行うための準備を進めましょう。

表2 主要品種の積算気温による刈り取り適期の目安

| 品種名 | 刈り取り適期の積算気温 |
|--------|-------------|
| ひとめぼれ | 900~1,050℃ |
| どんびしゃり | 950~1,050℃ |
| あきたこまち | 950~1,100℃ |
| かけはし | 950~1,050℃ |
| いわてっこ | 950~1,050℃ |
| ササニシキ | 1000~1,150℃ |
| ヒメノモチ | 950~1,050℃ |
| もち美人 | 950~1,050℃ |

表3 各地域の出穂期と日平均積算気温950℃到達日の予測

| 農 業 地 域 | 出穂期 | | | | | | 刈り始めの目安 出穂期~日平均気温積算温度950℃到達日(月/ 日) | | | | | | 使用 アメダス ポイント |
|---------|------|------|------|-----|-----|------|--|------|-------|------|-------|------|--------------------|
| | 本年 | | | 平年 | | | 出穂始期~ | | 出穂盛期~ | | 出穂終期~ | | |
| | 始期 | 盛期 | 終期 | 始期 | 盛期 | 終期 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | |
| 花 巻 | 8/5 | 8/8 | 8/11 | 8/4 | 8/7 | 8/11 | 9/15 | 9/17 | 9/18 | 9/20 | 9/22 | 9/25 | 花巻 |
| 北 上 | 8/5 | 8/9 | 8/13 | 8/4 | 8/9 | 8/12 | 9/15 | 9/17 | 9/20 | 9/22 | 9/25 | 9/27 | 北上 |
| 遠 野 | 8/4 | 8/7 | 8/11 | 8/3 | 8/6 | 8/10 | 9/17 | 9/18 | 9/21 | 9/22 | 9/26 | 9/28 | 遠野 |
| 西 和 賀 | 8/7 | 8/9 | 8/13 | 8/4 | 8/8 | 8/12 | 9/22 | 9/23 | 9/25 | 9/26 | 10/1 | 10/2 | 湯田 |
| 盛 岡 | 8/7 | 8/10 | 8/14 | 8/4 | 8/7 | 8/11 | 9/21 | 9/23 | 9/25 | 9/27 | 10/1 | 10/3 | 雫石 |
| 紫 波 | 8/4 | 8/8 | 8/11 | 8/2 | 8/5 | 8/10 | 9/15 | 9/17 | 9/20 | 9/23 | 9/24 | 9/27 | 紫波 |
| 八 幡 平 | 8/4 | 8/7 | 8/12 | 8/1 | 8/6 | 8/10 | 9/18 | 9/20 | 9/22 | 9/24 | 9/29 | 10/2 | 岩手松尾 |
| 奥 州 | 8/2 | 8/6 | 8/11 | 8/3 | 8/6 | 8/11 | 9/11 | 9/13 | 9/16 | 9/18 | 9/23 | 9/25 | 江刺 |
| 一 関 | 8/3 | 8/6 | 8/9 | 8/3 | 8/6 | 8/9 | 9/12 | 9/13 | 9/16 | 9/17 | 9/19 | 9/21 | 一関 |
| 大 船 渡 | 8/4 | 8/5 | 8/13 | 8/4 | 8/9 | 8/13 | 9/15 | 9/16 | 9/16 | 9/18 | 9/26 | 9/28 | 大船渡 |
| 釜 石 | 8/4 | 8/6 | 8/13 | 8/4 | 8/7 | 8/11 | 9/15 | 9/17 | 9/17 | 9/19 | 9/27 | 9/28 | 釜石 |
| 宮 古 | 8/6 | 8/8 | 8/14 | 8/4 | 8/7 | 8/12 | 9/19 | 9/21 | 9/22 | 9/24 | 9/30 | 10/2 | 山田 |
| 岩 泉 | 8/6 | 8/9 | 8/13 | 8/3 | 8/8 | 8/12 | 9/20 | 9/22 | 9/23 | 9/26 | 9/29 | 10/2 | 岩泉 |
| 久 慈 | 8/10 | 8/13 | 8/15 | 8/4 | 8/8 | 8/12 | 9/25 | 9/27 | 9/29 | 10/1 | 10/2 | 10/4 | 久慈 |
| 二 戸 | 8/5 | 8/7 | 8/10 | 8/3 | 8/6 | 8/10 | 9/18 | 9/19 | 9/21 | 9/22 | 9/24 | 9/26 | 二戸 |
| 軽 米 | 8/7 | 8/11 | 8/14 | 8/4 | 8/6 | 8/11 | 9/22 | 9/24 | 9/28 | 9/30 | 10/2 | 10/5 | 軽米 |
| 北上川上流 | 8/5 | 8/8 | 8/12 | 8/2 | 8/6 | 8/11 | 9/18 | 9/20 | 9/22 | 9/24 | 9/28 | 9/30 | |
| 北上川下流 | 8/4 | 8/7 | 8/11 | 8/4 | 8/7 | 8/11 | 9/15 | 9/16 | 9/19 | 9/20 | 9/24 | 9/26 | |
| 東 部 | 8/5 | 8/7 | 8/13 | 8/4 | 8/8 | 8/12 | 9/17 | 9/19 | 9/19 | 9/21 | 9/28 | 9/30 | |
| 北 部 | 8/7 | 8/10 | 8/13 | 8/3 | 8/7 | 8/11 | 9/21 | 9/23 | 9/26 | 9/27 | 9/29 | 10/1 | |
| 県 全 体 | 8/5 | 8/8 | 8/12 | 8/3 | 8/7 | 8/11 | 9/17 | 9/19 | 9/21 | 9/23 | 9/26 | 9/29 | |

* 各地域の代表アメダスの8月25日までの実測値、以降は平年値を使用して950℃到達日を予測

* 出穂始期：10%出穂、出穂盛期：50%出穂、出穂終期：90%出穂した日

* 平年は、H13~H23(H15除く)の10か年の平均値

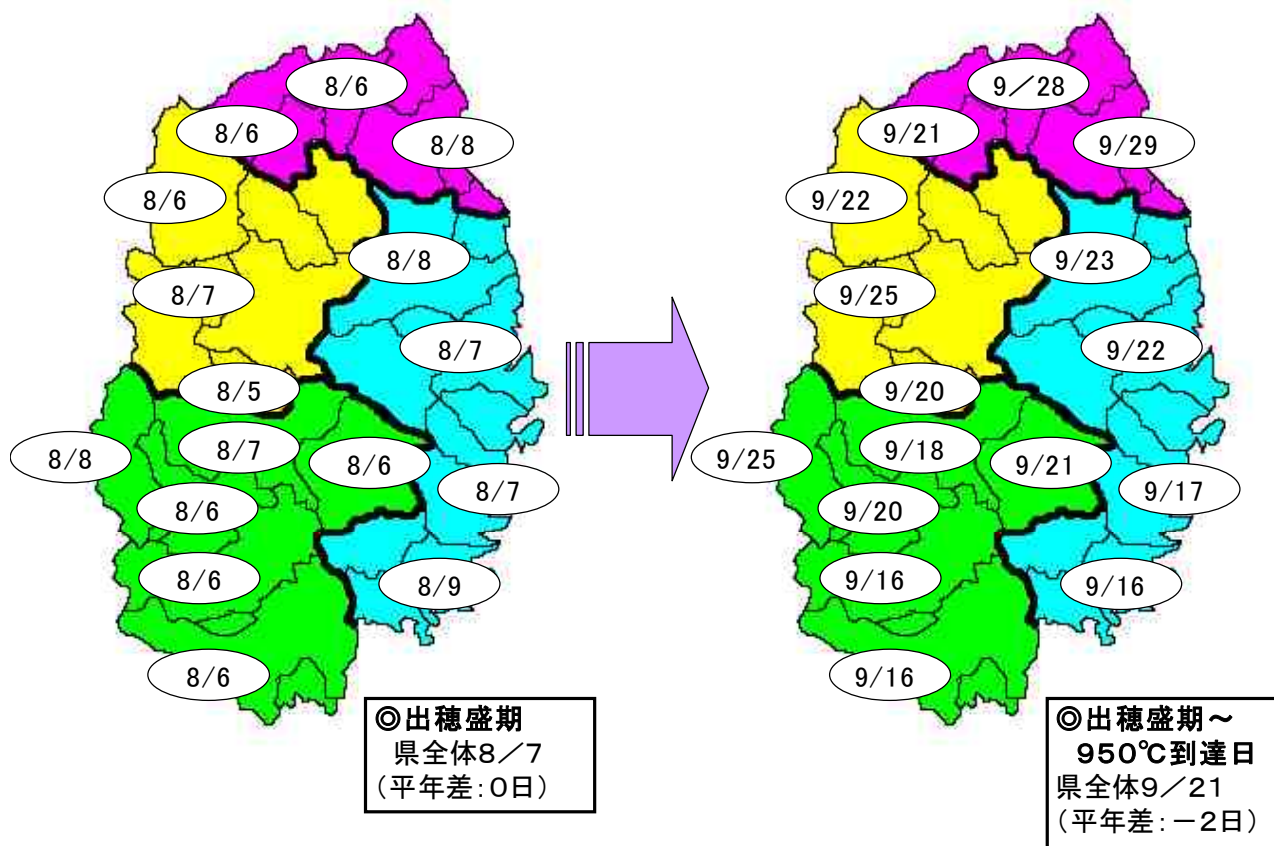


図2 各地域の出穂盛期から日平均積算気温950°C到達日の予測

※ 各地域の代表アメダス地点の日平均気温の積算（8/25までは実測値、以降は平年値を使用）

(2) 刈り取り適期の判断

出穂からの登熟積算気温が950°Cに近づいたら、

- 籾の黄化割合を随時チェックし、
- 籾の黄化割合が80~90%となったら刈り取りを行ってください。

(3) 刈り取り適期判断等の留意点

ア 積算気温は目安にとどめる

積算気温による方法は栽培法や日照時間によりズレが生じる場合があります。最終的には、籾の黄化割合（80~90%が黄色で、穂基部の1割程度が緑色）を基本に刈り取りの判断をします。

イ 籾水分の確認

コンバイン収穫では、作業開始前に水分計を用いて籾の水分状態が20~25%にあることを確認しましょう。

ウ 水田内で出穂のばらつきが大きい場合

1枚のほ場内でも出穂のばらつきが見られます。水口などで登熟が大幅に遅れているような場所は、刈り分けして品質低下を避けてください。

エ 倒伏した場合

台風や大雨等により倒伏した場合は刈り分けを行い、青未熟粒等の混入を避けてください。

オ テスト籾すりによる品質チェック

着色粒は出穂後の日平均積算気温が750°C頃から出始めることから、随時テスト籾すりを行い、刈取適期を判定してください。

5 乾燥・調製の留意点 **仕上げ水分は15.0%以下を徹底！！**

(1) 胴割れ粒の発生防止

毎時乾減率（1時間当りの水分低下）を0.8%以下とし、送風温度に十分に注意してください。急激な乾燥を避け、また、過乾燥にならないよう注意が必要です。

水分のバラつきが大きい場合は、水分測定をこまめに行い、籾水分18%の時に一旦乾燥機をとめて放冷・循環常温通風し、その後仕上げ乾燥して籾水分の均質化を図ります（二段乾燥）。

自然乾燥においては、掛け替えを行うなど乾燥に努め、乾燥期間は2週間以内としてください。

(2) 籾すり時の肌ずれ、脱ぶの防止

玄米水分15.0%以下の適正水分で籾すりを行います。（肌ずれ米の防止）

ゴムロールのすき間は、籾の厚さの約1/2（0.5～1.2mm）が標準です。

脱ぶ率は条件により変化するので、85%程度になるようロール間隔を調整します。

(3) ライスグレーダー

出荷製品となる玄米は、L L（1.9mm）の篩い目使用を基本とし、整粒歩合80%以上となるよう努めましょう。

6 異品種混入の防止

現在、全国的に異品種の混入が問題となっており、DNAの解析により米一粒からでも品種の判定ができます。異品種の混入が発生すると、品種名の表示ができなくなり、そのまま米を出荷すると、JAS法表示違反となるばかりか、産地全体のイメージを損ねることになります。

このような事態を回避し産地の信頼を確保するため、異品種混入を防ぐ管理に心掛けましょう。

特に、コンバイン、運搬機、乾燥機や籾摺機など収穫・乾燥・調製機械や施設内には、前年に収穫した籾等が残留している可能性があります。収穫が始まるまでにこれらの機械や施設の点検・清掃を行い、異品種の混入を未然に防止してください。

7 農作業安全

収穫時期は日没が早まるので、夕方に農作業事故の発生が多くなります。余裕のある作業計画とし、農作業安全に努めます。

次号は9月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。